

第2部 盲ろう者向け通訳・介助員の状況に関する調査

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

通訳・介助に関する学習や活動の状況、通訳・介助に対する意識などを把握することにより、盲ろう者向け通訳・介助員の今後の養成のあり方やカリキュラムを検討するための基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の対象

各都道府県の盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業に登録している通訳・介助員

3. 調査の基準日

平成25年1月1日

4. 調査の方法

都道府県障害福祉主管課47か所に「登録通訳・介助員数に関する調査票」を送付し、平成24年10月末日現在の通訳・介助員派遣事業の登録通訳・介助員の総数および使用文字種の内訳（普通文字、拡大文字、点字）の回答を求めた。

その後、回答のあった都道府県において、通訳・介助員派遣事業を受託している団体に使用文字種別ごとの調査票を送付し、受託団体から通訳・介助員に調査票を再送付した。

回収については、同封した封筒に入れて郵送にて返送してもらった。

受託団体から調査票の発送日は平成25年1月下旬、調査票の回答締切日は平成25年2月15日であった。

5. 回収状況

1,770通の回収が得られ（回収率：41%）、有効回答は1,675通であった（有効回答率：38.8%）。

6. 調査項目

本調査は本報告書の巻末に掲載した調査票「盲ろう者向け通訳・介助員の状況に関する調査」により実施した。各調査票における設問および調査項目は次のとおりである。

※〔複〕とあるのは複数回答となっている項目である。

7. 利用上の注意

百分率は、小数点以下第2位を四捨五入したため、総数・合計欄が100になっていても、内訳の合計が100%とならない場合がある。

表 2-1-1 調査項目

大項目		設問要約	設問
基本的属性	問1	性別	あなたの性別をお答えください。
	問2	年齢階級	あなたの年齢をお答えください。
	問3	所在地	あなたのお住まいの都道府県を記入してください。
	問4	障害	あなたに障害はありますか。
	問5	職業	あなたは通訳・介助派遣を除いて、職業に就いていますか。
	問6	国家資格・公的資格	あなたは福祉関係の国家資格や公的資格を持っていますか。
	問7	通訳・介助以外の福祉関係業務の登録	あなたは通訳・介助以外の福祉関係の業務について、自治体や事業所などに登録していますか。
	問8	自治体での通訳・介助員登録	あなたは複数の自治体に通訳・介助員登録をしていますか。
	問9	全国盲ろう者協会での通訳・介助員登録	あなたは社会福祉法人全国盲ろう者協会に通訳・介助員（訪問相談員）登録をしていますか。
	問10	手話経験	あなたは手話でのコミュニケーション経験はありますか。
	問11	点字経験	あなたは点訳（点字翻訳）の経験はありますか。
通訳・介助に関する学習状況	問12	通訳・介助員養成講習会の受講状況	あなたは自治体で実施されている通訳・介助員養成講習会を受講しましたか。（登録者向けの「現任研修」などは含みません）
	問13	機関・団体主催の研修会の受講状況	あなたは以下にあげる講習会を受講しましたか。
	問14	コミュニケーション方法の習得状況	あなたは盲ろう者のコミュニケーション方法を、どの程度身につけていますか。それぞれの方法について、あてはまる番号1つに○をしてください。
	問15	通訳・介助員養成講習会の受講により習得したコミュニケーション方法〔複〕	（問12で「受講している」に○を付けた方にお尋ねします）あなたが身につけている（少なくとも1対1の対話ができる）方法のうち、通訳・介助員養成講習会を受講することによって身につけたコミュニケーション方法をお答えください。〔あてはまる番号すべてに○をしてください〕
	問16	通訳・介助員養成講習会の有用度	（問12で「受講している」に○を付けた方にお尋ねします）通訳・介助員養成講習会は、通訳・介助活動をするうえで、役に立ったと思いますか。〔あてはまる番号1つに○〕
	問17	通訳・介助員養成講習への要望・ニーズ	通訳・介助員養成講習会について、もっと講習が必要だと思う内容やあまり講習が必要でないと思う内容があれば、自由にご記入ください。
通訳・介助に関する活動状況について	問18	通訳・介助活動歴	あなたはこれまで通訳・介助活動をしたことがありますか。
	問19	過去1年間の通訳・介助活動状況	あなたは過去1年間（2012年1月1日～2012年12月31日）に、登録をしている自治体で通訳・介助活動をしましたか。
	問20	担当盲ろう者の年齢層〔複〕	過去1年間（2012年1月1日～2012年12月31日）の通訳・介助活動のなかで、あなたが担当したことのある盲ろう者の年齢層をお答えください。〔あてはまる番号すべてに○〕
	問21	最多担当盲ろう者の年齢層	問20でお答えになった年齢層のうち、過去1年間の通訳・介助活動のなかで、あなたが最も担当した日数の多かった盲ろう者の年齢層をお答えください。〔あてはまる番号1つに○〕
	問22	担当盲ろう者のコミュニケーション方法〔複〕	過去1年間（2012年1月1日～2012年12月31日）の通訳・介助活動のなかで、あなたが担当したことのある盲ろう者の受信コミュニケーション方法をお答えください。〔あてはまる番号すべてに○をしてください〕
	問23	最多担当盲ろう者のコミュニケーション方法	問22でお答えになったコミュニケーション方法のうち、過去1年間の通訳・介助活動のなかで、あなたが最も担当した日数の多かった盲ろう者の受信コミュニケーション方法をお答えください。〔あてはまる番号1つに○〕
通訳・介助に関する意識について	問24	盲ろう者との関わり方と通訳・介助活動の考え方	次にあげた文章は、複数の通訳・介助員が「盲ろう者との関わり方」や「通訳・介助活動に対する考え」について述べた言葉です。それぞれについて、あなたの通訳・介助員としての関わり方や考えと近いかどうか、「まったく当てはまらない」を“1”、「非常に当てはまる」を“7”として、7段階でお答えください。深く考えず直感で、それぞれについて番号1つに○をしてください。
	問25	通訳・介助活動での課題・ニーズ	通訳・介助活動にあたるうえで、あなたが困りになっていることがあれば、自由にご記入ください。

第2章 結果の概要

1. 調査協力者の基本的属性

(1) 性別・年齢階級・所在地

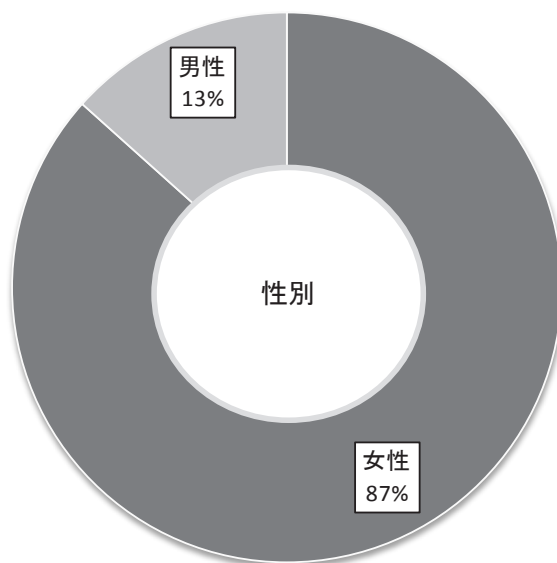
■ 性別

「女性」の通訳・介助員の割合が86.6%

・「女性」1451人、「男性」224人と女性の通訳・介助員が多い。

表・図 2-2-1 性別

	人数	割合
女性	1451	86.6%
男性	224	13.4%
合計	1675	100.0%



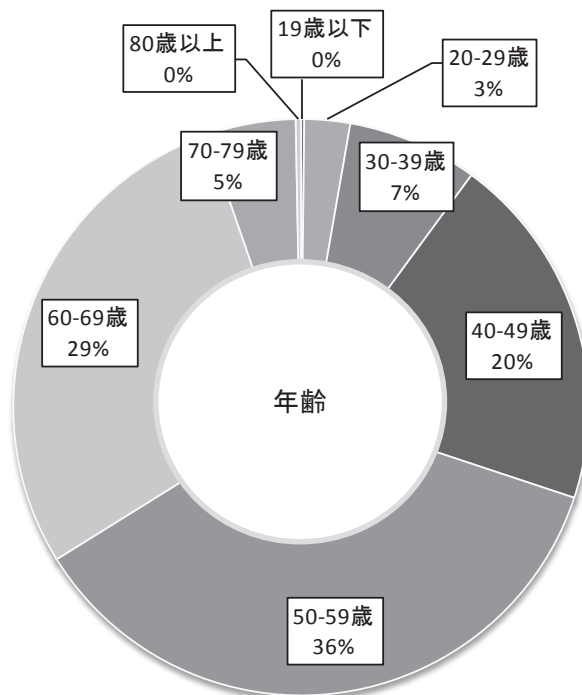
■ 年齢

「50-59歳」が最も高く36.1%

・次いで、「60-69歳」28.5%、「40-49歳」20.0%と続く。

表・図 2-2-1 年齢

	人数	割合
19歳以下	3	0.2%
20-29歳	43	2.6%
30-39歳	123	7.3%
40-49歳	335	20.0%
50-59歳	604	36.1%
60-69歳	478	28.5%
70-79歳	84	5.0%
80歳以上	5	0.3%
合計	1675	100.0%



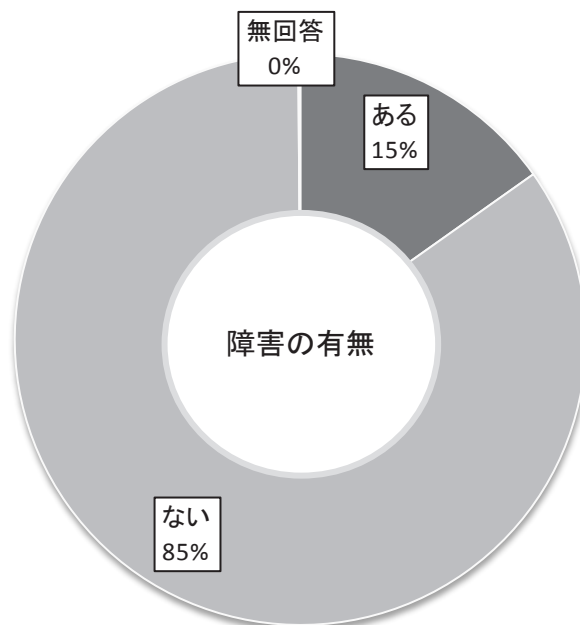
(2) 障害

■ 障害の有無

障害が「ある」が15.2%

表・図 2-2-3 障害の有無

	人数	割合
ある	254	15.2%
ない	1419	84.7%
無回答	2	0.1%
合計	1675	100.0%



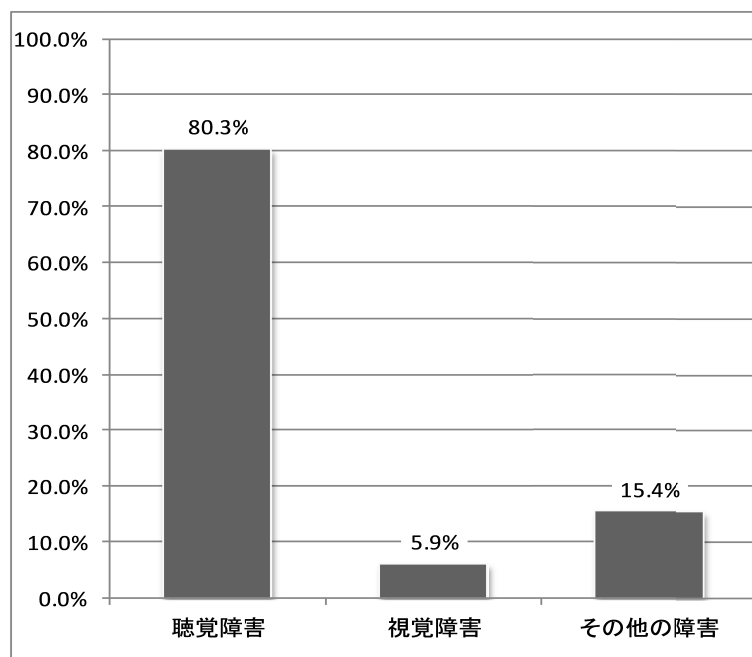
■ 障害の種類

障害があると回答した通訳・介助員のうち、「聴覚障害」が80.3%、「視覚障害」が5.9%

表 2-2-4 障害の種類

	人数	割合
聴覚障害	204	80.3%
視覚障害	15	5.9%
その他の障害	39	15.4%

図 2-2-4 障害の種類



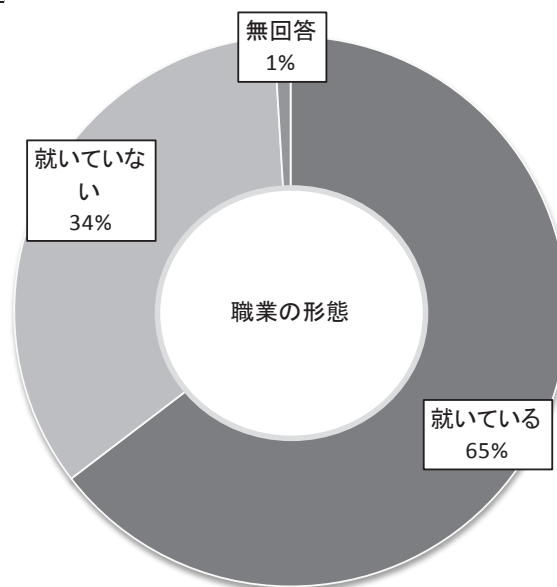
(3) 職業

■ 職業の有無

職業に「就いている」64.6%、「就いていない」34.4%

表・図 2-2-5 職業の有無

	人数	割合
就いている	1082	64.6%
就いていない	577	34.4%
無回答	16	1.0%
合計	1675	100.0%



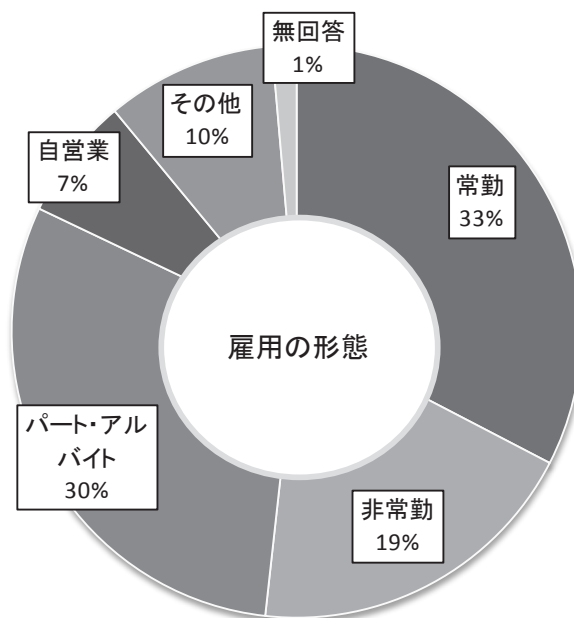
■ 雇用の形態

「常勤」が最も高く 32.6%

・次いで、「パート・アルバイト」30.3%、「非常勤」19.1%と続く。

表・図 2-2-6 雇用の形態

	人数	割合
常勤	353	32.6%
非常勤	207	19.1%
パート・アルバイト	328	30.3%
自営業	75	6.9%
その他	104	9.6%
無回答	15	1.4%
合計	1082	100.0%



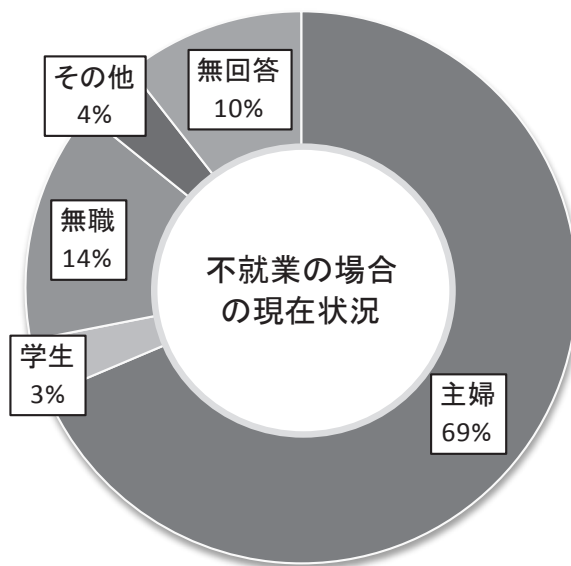
■ 不就業の場合の現在状況

「主婦」が最も高く 68.6%

・次いで、「無職」が 13.9%と続く。

表・図 2-2-7 不就業の場合の現在状況

	人数	割合
主婦	396	68.6%
学生	19	3.3%
無職	80	13.9%
その他	21	3.6%
無回答	61	10.6%
合計	577	100.0%



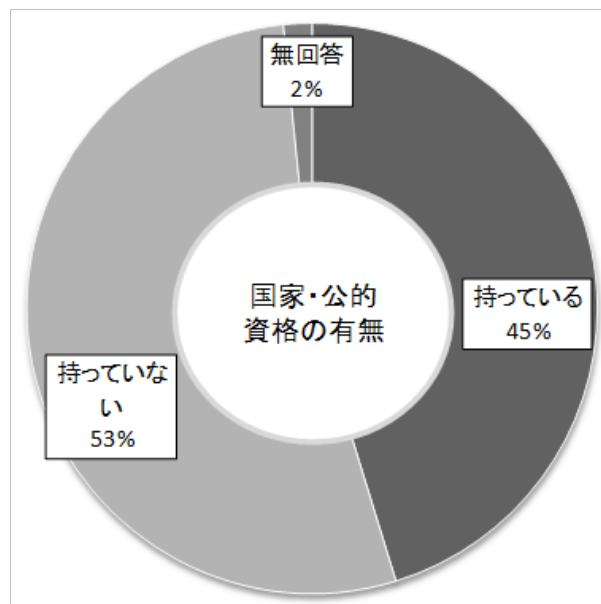
(4) 国家資格・公的資格

■ 福祉関係の国家資格や公的資格の有無

国家資格・公的資格を「持っている」45.3%、「持っていない」53.1%

表・図 2-2-8 国家資格・公的資格の有無

	人数	割合
持っている	758	45.3%
持っていない	890	53.1%
無回答	27	1.6%
合計	1675	100.0%



■ 資格の種類

国家資格・公的資格を持っている人の中では「手話通訳士」の割合が最も高く 28.1%

- ・次いで、「介護福祉士」21.6%、「介護支援専門員」16.0%と続く。
- ・その他の内訳は、「ホームヘルパー」、「ガイドヘルパー」、「手話通訳者」などであった。

表 2-2-9 資格の種類

	人数	割合
介護福祉士	164	21.6%
社会福祉士	44	5.8%
精神保健福祉士	18	2.4%
介護支援専門員	121	16.0%
手話通訳士	213	28.1%
その他	397	52.4%

図 2-2-9 資格の種類

